保護者、職員に下記の内容でアンケートを実施し、その結果を事業所内で評価を抽出し、

**令和３年度児童発達支援さくらんぼ事業所自己評価シート**

分析、改善への取り組みを考察しました。

**【アンケート調査の概要】**

**【保護者、職員共通項目】**

１サービス提供時の環境面について

２児童への支援内容について

**【職員向け項目】**

１適切な支援の提供について

２関係機関や保護者との連携について

３保護者への説明について

４リスク管理について

**【保護者向け項目】**

１関係機関との連携について

２保護者への説明責任・信頼関係について

３非常時の対応について

４満足度について

＊評価の抽出は別紙をご参照下さい。

**アンケートの考察**

**【保護者、職員共通項目】**

**１サービス提供時の環境面について**

・構造化、バリアフリー化への配慮で、保護者評価は「少しそう思う」、未記入の方もおり、配慮が足りていないと感じている方がいる。職員評価は行っているが多かった。

⇒一般的イメージの構造化とはなっていないが、発達の特性に配慮し、成長する段階として必要な範囲での構造化として取り入れている。

**２児童への支援内容、満足度について**

・お子様が楽しいと思えない状況や支援に満足していないと感じさせてしまっている。

⇒「少しそう思う」「あまりそう思わない」「未記入」の方のご意見がわからないが、お子様の様子を

見て、そう感じた為の評価だったと考える。家が大好きなのか、たまにそんな日があったのか、

行くのを嫌がっているのか、療育を目的としているのかと推察し、事業所に着いてからは、笑顔が

出ている事が多いので、「楽しそうではない」と思っていた事に対してタイムリーに対応する事が

できなかった。アンケートに理由を記載してもらえるように書式見直す。面談の際に楽しく来られている

のか、どんな支援をしてほしいと思っているかをタイムリーに対処できるようにする。

・専門性の支援を感じていない方がいる。

⇒職員の経験年数やスキルの差はあると思う。研修を重ね、知識、認識を共有していく。また、職員間

で専門的視点をもてるように指導していく

【保護者、職員共通項目】つづき

【保護者向け項目】

１関係機関との連携について

・コロナがなければ、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や活動をする機会を希望している。

⇒これまでは交流事業を希望する方がほとんどいなかったが、今回は希望する方が多かった。

　はぴねすが地域との交流事業となっているが、地域の社会資源との連携も行っていきたい。

・保護者同士の連携が取れる支援はコロナが収まればやってほしい要望がある。

⇒コロナ禍が落ち着いたら、保護者交流の場や、保護者会の開催は行いたい。

・「活動スペースが清潔に保たれているか」に対し、職員は清潔な環境を整えていると思っていたが、

保護者評価では、「少しそう思う」の評価の方もいた。

**２保護者への説明責任・信頼関係について**

・相談内容を職員は共有、反映出来ている評価だが、保護者は職員同士での情報共有や共通理解が十分にされていないと感じている方もいる。共通理解がされていないと感じさせてしまっている。

⇒アセスメント把握不足、アセスメント周知遅れ。職員が保護者の方と話していて、「そうなんですね」と答えている事はあり、持ち帰るとすでに伺っていたという事もあったので、保護者としては『伝えたのに』

と感じた方はいらっしゃったと思われる。基礎調査表の更新周知は迅速に、送迎時に保護者から聞いた

情報、何気ない話も聞き流さないように意識し必ず、事業所へ報告し、共有していく事を

再度指導していく。連絡帳の記載も十分注意していく。

・アドバイスをもらえていないと感じている方がいる。

⇒これまでの経験、知識を生かし、助言していく。相談に対して、提案、経験談を伝えることは

していたが、「○○したほうがいい」と方向性を断言する伝え方はしていない。相談しながら、

方向性を決めるか、方法を伝え、最後は保護者に決めてもらうことは多かったと思う。

・契約時にガイドラインの説明を取り入れてから評価が上がった。⇒継続する。

・月間活動予定表、保護者との連絡方法は電話のみしかなく、情報量として十分には発信はできていない。

⇒月の予定表が発行できるように準備をしていく。保護者との連絡方法は、電話以外の方法も

検討する。

分析・検討してみて…

事業所の改善点

事業所の強み

・全体の評価は高いが、「少しそう思う」

や未記入の評価もある為、対処していく。

・情報共有、共通理解が不足していた。

・専門職としてアドバイスが足りていない

・発信不足で発信する事で改善が見込める

事はある。

・関係機関との交流

・保護者同士の連携仲介

・保護者、職員との交流事業

・活動プログラム立案が常勤のみ

・事業所の支援に満足してもらえている

・契約時に丁寧な説明が行われている

・日頃から健康、発達状況、課題に

ついて相談、意見を伝えやすい雰囲気、

職員の配慮がある

・支援前後にミーティングを行い、

振り返り、気づき、リスク、改善点を

共有し、支援に反映させている。

・事業所内研修を毎月行っている。

・面談が丁寧

事業所の改善への取り組み

・人材不足－人材の採用、育成を行う。

・家庭支援プログラムを知り、ニーズを探る、また、情報提供を行う。

・保護者の方へ伝わるよう事業所が取り組んでいる事の発信を行っていく。

・連絡帳から保護者の思いを汲み取りきれていなかったと思われるので、注意して対応していく。

・相談内容などの情報共有、共通理解不足はアセスメント把握、アセスメント更新に速やかな発信、

　各職員が保護者より得た情報、何気ない会話も含め事業所内で報告するなどの指導を再度行う。

・相談に対しても提案や保護者に最終判断を委ねていたので、専門的視点でアドバイスとして伝えていく。

・専門性も研修を重ね、知識、認識の共有。専門支援スキルが身につくよう個別に具体的に指導していく。

・保護者同士の交流やお話が出来る場を作る

・保護者、職員との交流事業として、コロナ禍で出来る事で取り組む

・職員への周知不足は会議へ取り入れ、報告していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・『療育とは？』利用者と職員との理解に相違があるのではないかと議論でき、事業所が療育として行って

いる事を発信していきたい。

・今回、初めて児童発達支援のみでの評価を受けて、専門的なアドバイス、助言を求めている事が見えた。

事業所として技術の向上ができるように取り組んでいきたい。

・保育所、幼稚園等他機関との交流を望まない回答が多かったが、今回は希望する声が多かった。交流する

　方法を探っていきたい。

事業所名　　　　さくらんぼ

担当者　　　　　吉田　優美